

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2693200012		
法人名	医療法人健和会		
事業所名	ふれあいの里京田辺(グループホーム)		
所在地	京都府京田辺市宮津池ノ内36番地		
自己評価作成日	平成24年2月7日	評価結果市町村受理日	平成24年6月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaingokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2693200012&amp;SCD=320&amp;PCD=26">http://www.kaingokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2693200012&amp;SCD=320&amp;PCD=26</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83-1 「京都ひと・まち・交流館」1F		
訪問調査日	平成24年3月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様に「居心地がいい」と感じて頂けるケアを目標に日々利用者様と過ごしている。職員一人ひとりが意見を出し合い、対応や業務のないようについて話し合うことを大切にしている。職員の退職や小規模からの移動などもあったが、ようやく落ち着き、色々なことに取り組める体制が出来つつある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは京田辺市の南、奈良県に隣接した近鉄宮津駅近くにあり、元は農家の多い地区である。建築会社と鉄工所のある敷地に立っているが、前は交通量の多くなった旧街道(府道)であり、古い街並みの旧家が点在した新旧混在している土地柄である。地域独特の風習も残っていて、地元との協力が不可欠のため、運営推進会議では多くの参加者が来やすいように、施設と地元公民館を交代で開催する工夫を行っている。2階建てで1階は小規模多機能型、2階をグループホームにし、今年で開設4年になる。外部評価の結果から、改善目標として各委員会活動の充実・取り組んだことの実践の継続・共有した情報をチームで取り組む事を掲げ、この1年間研鑽に励んでいる。家族と利用者、職員の関わりを常に密に保つため各利用者の最近の様子を表した「スマイルカード」を作成し、日々の生活の様子と写真をA4の紙にプリントし、毎月家族に送り、喜ばれている。3年目を迎える家族会、運営推進会議のメンバーの協力などで秋祭りをはじめ年間を通して地域住民を含めた行事が盛んで、利用者の大きな楽しみになっている。職員の定着率の課題はあるものの職場改善など管理者や職員間の忌憚のない話し合いで、より良い支援へ向けて一丸となつての取り組みの様子が窺われる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



京都府 グループホーム ふれあいの里京田辺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法は学習できていない。新聞や報道などから虐待のニュースがあったときなどは内容について考える機会を持つようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の学習は出来ていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約内容を読み上げ、確認しながら進めている。サービスが始まってからもう一つでもお声を掛けて下さいと伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を3ヶ月に1回開催している。会で頂いた意見を本部会議で報告したり、運営推進会議で議題に出すなど頂いた意見を反映させるようにしている。	家族の要望でレクリエーション、外出希望を検討し実現している。家族は「言ってくれたら何でもするよ」と協力姿勢を惜しまない。家族会も協力して利用者・町内住民・老人会・職員など100人余りが楽しんだ秋祭りの成功などは、運営に力添えできた事例の1つである。秋祭りのアンケートでは「本人が盆踊りで踊っているのをみてびっくりしたがうれしかった」とあり好評を得て職員間でも喜びとなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケア会議や年2回の面接時に職員の意見や要望等を聞き取りしている。それ以外にも機になる職員がいれば個別面接をするようにしている	人間関係のトラブルがあった時はすぐに個別面談を行い解決するようにしている。また毎日朝のミーティングでケアカンファレンスを行い、毎日続ける事によってケアプランの意見を出せるようになった。また「忘年会に寸劇を取り入れては」という意見が出され多数の家族が参加されて、みんなに好評を得た。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人ではキャリアパス制度が導入され、制度に沿って評価を行っている。会議や勉強会などは時間外手当をつけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望する内容で勉強会をしたり、外間研修への費用負担を行い、研修を受けられる環境を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型会議で交流する機会を持ち、他事業所の交換研修や利用者同士の交流などを企画したいと話しているが、実現できていない。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけご本人の思いを聞くように努めているが、なかなか話して頂けないので日々のかかわりの中から拾い出しが出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意見は時間をかけて聞くようにしている。入所されるため、困っていることよりもどう暮らしてほしいかを主に聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント時に問題点の整理を行い、優先順位を考えて支援するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念の中で「教えていただける事に感謝します」の気持ちで接することが出来る関係を築けるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とご本人が過ごす時間を出来るだけ多くとってほしいと思っている。ご家族の多くは面会時、自分の身内だけでなく他利用者との関わりも多く持ってください、その時の感想などを家族会で話をしてくだったりする。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	担当者会議などで昔の友人や、懐かしい場所への外出などの行っていただきたいとお話するようにしている。1名の方は昔の友人に会いに出かけたり、1名の方は昔住んでいた場所に出かけ、友人に会ったりすることができた。	家族の思いを汲みとり、利用者の元の住まいの近くまで、車で連れてあげたり、利用者の元の住まいが職員の自宅近くであることから同行したり、家族からの発案で利用者の友人との面会を実現したり、ひもときシートを利用したりと、馴染みの関係の掘り起こしに努力している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	利用者様同士助けたり、心配したり、時には 県下をしたりしながら関係を築いておられ る。職員はでしゃばらず見守り、いい塩梅に 間に入り関係を保つ支援を行っている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の 経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養に入居された方のその後の様子をケア マネに聞いたりすることを行っている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	ご本人はどうしたいと思っているだろうとい うことを意識して関わっている。	日常支援の中での利用者の言葉や行動から読み 取ったり、家族の情報を記録している。入居時の フェイスシート、アセスメントシートに本人情報をき ろくするほか、センター方式のシートの一部も利用 し、情報の収集を積み重ねている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	生活歴の情報は主に家族から情報収集して いる。ケアプランでその方の楽しみを生かし た生活を盛り込むよう努めているが、十分で はないと考えている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりの残された力を生かし、出来 ることを楽しく出来るように考えている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	毎日のケースカンファレンスで出た意見を担 当者がまとめて主にケアマネが作成してい る。	担当職員は普段の利用者の言動をチェック、記録 し、担当者会議に繋げている。家族の意見は日ご ろの面会時、推進会議、家族会などから吸い上げ ている。これらの内容を集約しケアマネージャーが 介護計画を作成している。担当者は介護計画の項 目に添って日々のケア記録を実施し、毎月モニタ リングを行っている。しかし記録の内容が多すぎて 散漫になり新たな介護計画に結びついていない。	利用者の支援経過は介護計画の項目に 沿って、実施したかどうか記入して考察や 評価を記録に残すものである。介護計画 につながるようモニタリングし、記録につい てはチームで研修されることを期待する。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	勉強会で記録の書き方を学習し、どうゆう情 報が生かされるかということのグループワー クを行ったりしているが、経過の記録が多く 改善は必要であると考えている。			

京都府 グループホーム ふれあいの里京田辺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービス内容にあまり変化はない。家族の希望やご本人の訴えには柔軟に対応する気持ちはある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用はほとんどない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれかかりつけ医を持っておられ、定期的に受診をしている。主治医の先生とは気さくに相談できる関係ができています。	従来のかかりつけ医を継続している利用者、近くの開業医を紹介し受診している利用者等希望を大切にしている。受診は基本的に家族が同行しているが、都合で職員が付き添うこともある。利用者の状態情報は手紙に書いて同行の家族に託している。電話での応答などかかりつけ医と事業所はよく連携できている。場合によって認知症専門病院を紹介する時もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム専属の看護師は配置しておらず、訪問看護と医療連携をしている。定期的に訪問して頂き、医療面の相談や家族への説明もお願いしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	特に御本人の性格や、こだわりと言った所を大事にして頂きたいので細かく伝える様になっている。 入院中も訪問し、御本人の様子を見させて頂いたりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	担当者会議ごとに確認をするようにしている。 職員には日頃の関わりの中で御本人の死生観等を聞き取り出来るよう指導している。	事業所として重度化した時や終末期に向けた方針についての考えは明文化していないが、契約時や相談を受けた時など随時話し合いを持っている。事業所が対応可能なぎりぎりの線を伝え家族利用者の納得を得ている。退所後の相談も丁寧に対応している。	事業所としての、重度化や終末期に向けた方針を策定すると共に、それをもとに利用者や家族と話し合いを行い、チームで支援に取り組むことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応についてその方、その方についての対応は指示している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1回の割合で危機管理委員会の計画で避難訓練を行っている。 年に2回は地域、行政、消防の方に参加してもらい訓練をおこなっている。	消防署の指導のもと、夜間想定を含め年6回の地震、火事の避難訓練を実施している。近隣住民の協力は厚く、近隣の出火の際もいち早く駆けつけ利用者をおぶって避難させてくれた事例がある。備蓄は本年度は東日本震災の影響で品薄で今期の非常食品がまだ届いていないが、準備は行い計画されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの声掛けや、排泄に関して大きい声を出さない、他者に聞こえる様に言わないよう勉強会などで指導、確認している。	職員は法人研修を受け、接客マニュアル、介護マニュアルを各自が所持し、周知を図っている。勉強会として、ロールプレイで管理者が職員指導を行い効果をあげている。トイレ、居室は内鍵がかけられる。職員間の打ち合わせ、電話応答などは利用者から離れたケアステーションでおこなう気配りがなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	事故決定が出来る様な関わりが出来ていない。 もっともっと御本人の想いや希望を引き出せるケアが必要である。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御自分から希望やどう過ごしたい、と言われる事は無いのでお天気や季節によって外出、ドライブに出かけたりしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を自分で選べる方は好きな服を選べるよな関わりをしている。 選べない方についても、「どちらにしましょうと」働きかけるよう声掛けしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理委員会があり、委員が中心となって何をどう食べてもらったら良いかの検討をし、職員全体で考えてもらうよう活動している。調理レクリエーションに参加して頂き、力の発揮が出来るよう関わっている。	献立レシピ付きの食材を業者から取り寄せているが、職員間には調理委員会があり、利用者の希望をとり食材配達業者とメニューを相談している。また季節感、色どり、栄養バランスに気を配ったり、利用者の好みで献立の一部変更するなどの工夫を行っている。調理レク、記念日献立などを設け、盛り付けや食器にも変化を付けて食事が楽しめるよう工夫している。	

京都府 グループホーム ふれあいの里京田辺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	御家族より、太りすぎを指摘頂く事があり、何をどう食べてもらうかを検討している。水分摂取は特に気を付けるよう意識してもらおう		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きは必ず行う様にしている。歯の痛みや不具合が生じた時は適宜訪問歯科に往診して頂けるような体制を整えている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は布パンツ、夜間はリハパンとその方に応じた対応をしている。トイレに行かない方への対応には苦慮している。	排泄表でリズムを確認してトイレに誘導している。パンツ内をいつも清潔に保てるように、夜中、朝、夕方に失禁の確認を実行している。「トイレで自然排便を」を目標に支援が実践されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	御家族と相談しながら、服薬して頂いたり運動や水分の摂取の管理を行ったりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	御本人の希望に添った入浴をして頂いているが時には行事等で午前中に皆さん入って頂く時もある。	基本は午前午後に分けて入浴支援するとしているものの、利用者それぞれの気持ちを大切に、時には夜間入浴なども含め入るタイミングを見つけ自由に入浴している。ゆず湯、入浴剤で変化を付けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ケアプランの中にも昼寝を入れたり、入浴後や外出後の疲れた時は横になって頂く支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬品説明のファイルを見ながら配薬し、薬に関する意識を持てるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御本人の生活歴や想いの確認についてはまだまだ弱い所がある。家族から聞き取った御本人の歴史等を活かしていきたい。		

京都府 グループホーム ふれあいの里京田辺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気や季節によって外出の機会が多い。地域の催しものへの参加時は地域の方とお話をしたり、移動を手伝って頂く場面もある。	職員会議で「近所の方に挨拶して写真を一緒に撮ってもらおう」ということが提案されたのをきっかけに最近、途中で出会う近所の住民と写真を撮る楽しみができ、交流が生まれている。普段出歩きのにくい利用者は四季折々のドライブやスーパーで買い物を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持っておられる方は1名おられ、週に1回買物の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の音が聞こえにくく返って混乱する場合があります。電話の希望の内様によっては職員が内線通話で対応している時もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によって飾り付けを工夫したり、調整光によって明るさの調整をしている。日中は出来るだけ自然光を取り入れる様にしている。	居間はイオン空気清浄機、エアコン、温度湿度計を設置し、ダウンライトの照明、レースカーテンに防火カーテンを重ね光の調節をしている。ホームに隣接している鉄工所からは時折大きな音が聞こえるが気にする利用者はいないという。広い廊下には全て手すりを設置、利用者の行動に合わせてソファが4つ随所に配置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれかかりつけ医を持っておられ、定期的に受診をしている。主治医の先生とは気さくに相談できる関係ができている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	主旨をお話し、自宅で使い慣れた物を持ってきて頂くようお願いしているが、なかなか持って来て頂けない。	カーテン・白色灯・エアコン・クローゼット・洗面所が各部屋備え付けになっている。部屋の入口にはそれぞれ好きな花を彫った手作り表札が掛っているが、好みで外している人もいる。利用者は仏壇、家族写真、壁飾り、アルバム、好みのダンス等を持ち込み、落ち着いた暮らしが窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	筋力アップのため歩行して頂いているが、途中で休めるようソファを置いている。無理をせず楽しく歩ける工夫を行っている。		